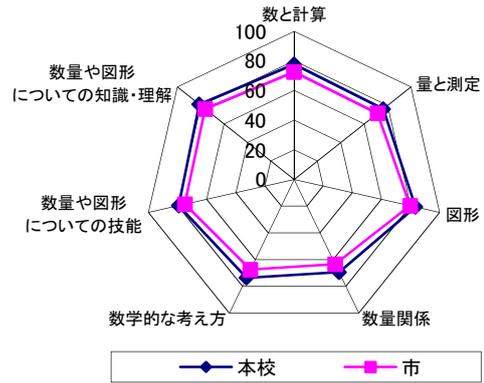


宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	77.7	72.5
	量と測定	76.3	71.5
	図形	83.3	79.6
	数量関係	69.5	63.5
観点別	数学的な考え方	73.6	67.6
	数量や図形についての技能	79.2	75.1
	数量や図形についての知識・理解	81.3	76.3



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は77.7%で、市の平均を5.2%上回っている。整数÷小数の商と余りについて、小数点の位置を含めて正しく求められた児童が44.1%だった。被除数の小数点の位置を移動できない児童が11.9%、余りの小数点の位置を正しくつけられない児童が33.9%もいた。	○整数を小数でわる時の小数点の位置の動かし方について、その理由を明らかにした上で理解させていく。小数同士のかけ算の積の小数点の位置については、小数点の桁数の合計分動くことをおさえない。繰り返し問題を解くことで習熟を図っていく。
量と測定	○平均正答率は76.3%で市の平均を4.8%上回っている。しかし単位量あたりの大きさや平均についての理解がよくなされていないため、混み具合を求める計算の仕方がわからない児童が41.5%もいた。計算の結果を反対のことと捉えている児童が22.9%いた。	○計算によって何が求められるかわからせるため具体物を使って示す。例えば面積あたりの匹数が1匹あたりの面積か、どちらを求めている式なのかを正しく把握させるため、数直線や図を活用する。少人数指導により習熟を図りたい。
図形	○4領域の中で最も正答率が高く、平均正答率は市の平均を3.7%上回り83.3%であった。四角形の内角の和から一つの外角を求める問題の正答率が低かった。また合同な図形の性質について14.4%の児童が理解できていなかった。	○四角形の内角の和が360°であることを確認させ、外角の求め方を想起させたい。合同な図形についてどこどこが対応しているのか、見る角度を変えさせたり指でなぞったりさせて理解させる。
数量関係	○平均正答率は69.5%で、市の平均を6.0%も上回っている。しかし市同様5領域の中で最も正答率が低い。ともなって変わる2つの数量の関係性を式に表すところでのつまづきが見られる。	○一方の値が変わることでもう一方の値がどのように変わっていくか、一つ一つについてじっくり計算させていく。計算の途中での誤りも目立つ。ひっ算を疎かにせず丁寧に書いておくように指導する。また表に値を記入していくことで、その規則性に気づかせていきたい。